

## MSBB 熱中症予防対策ガイドライン

令和 7 年 6 月 6 日  
目黒区少年軟式野球連盟

日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」の「熱中症予防運動指針」に基づき、暑さ指数（WBGT）31℃以上の場合には原則運動禁止の観点および、JSBB 熱中症予防対策ガイドラインの方針から、目黒区少年軟式野球連盟主催の大会においては、下記のように対応する。

### ■MSBB 暑さ指数に係る実施方針

熱中症予防運動指針(WBGT℃)		JSBB MSBB	試合会場での対応
JSPO	環境省	熱中症予防対策指針	
<b>31℃以上</b> <b>運動は原則中止</b> ※特に子どもの場合は中止にすべき	35℃(予測値) 参考：熱中症特別警戒アラート	試合の中止	当日の会場でのWBGT計測により試合の中止・順延を判断する。
	33℃(予測値) 参考：熱中症特別警戒アラート	試合の中止	当日の会場でのWBGT計測により試合の中止・順延・時間変更を判断する。
	—	原則試合の中止	原則、試合は中止、中断、順延とするが、JSBB危機管理マニュアル（熱中症項目）の大会運営側の対応ならびに試合中のクーリングブレイクの確保が十分に取られている場合には、主催者の判断において実施することができる。 ※ <b>試合中にWBGT33℃を超えた場合は、試合を中止または中断する。</b>

### ■JSBB 危機管理マニュアルから、MSBB では下記の対策を取り、熱中症予防対策とする。

- ・救護所は、砦グラウンドは砦事務所、碑文谷野球場は体育館内とする
- ・WBGT 計測器は砦グラウンド A 面、F 面と碑文谷野球場に設置し、計測する
- ・グラウンドの日除けは、砦グラウンドの各面にテントを設置することとする
- ・試合中はクーリングタイムを設ける(試合時間には含めない)
  - 学童高学年以上：3 回終了時に 3 分、低学年は 2 回終了時に 3 分
  - クーリングタイム時は日射を遮り、風通しの良い環境で冷却等を実施し休ませること
- ・試合間にグラウンドへ水撒きを実施する（第一試合前にも実施）
- ・砦 A 面、B 面、F 面に応急処置用のスポーツドリンク、冷却スプレー等を用意する

## ■MSBB 大会における WBGT の計測の実施

- ①WBGT 計測は、当番理事が下記の要領で実施し、今後の熱中症対策の指標として活用する
- ②計測は、日程ごとに砧 A 面の試合で実施する。
- ③計測は次の時間におこない、記録をつけて所定のファイルに保存し、砧事務所に保管する  
・第一試合開始 30 分前・試合中給水タイム・試合終了～次の試合開始まで
- ④WBGT 計測器は所定の三脚に設置し地上から 1.1m～1.5m の高さで計測する。
- ⑤計測場所はバックネット裏のネットから 1 m 以内とする

## ■試合当日の対応

原則 WBGT 31℃ 以上の場合、試合は開始しない

※WBGT 31℃ 以上が試合中に予測される場合は、熱中症予防対策を実施し、当番理事および審判責任者の判断で試合を実施することができる。

※試合前および試合途中での中止・順延・時間変更の判断は当番理事および審判責任者で協議し、理事長と日程担当に報告。

中止・順延・時間変更の場合は理事長から各方面へ連絡する

## ■その他の熱中症予防対策

●暑さ指数予測値が 30 以下であっても、暑さ指数 28～30 になるなど暑さを感じる場合は試合時の給水タイムを多めにとるなどの対応をする。

上記の環境で下記の状況が発生した場合は給水タイムを設ける

- 1) 守備時間が長時間となる場合（目安は 5 分超または打者 1 巡など）
- 2) 選手・監督から給水タイムの要請があった場合

その他、給水のタイミングは、その試合を担当している審判、および控え審判、審判部責任者の判断とする

●上記の対応に当てはまらない場合は、その都度検討し通知する

●両チームベンチ内にテント及び扇風機(ポータブル電源)を設置することが望ましい

●試合中、ベンチ内外を問わず、ネッククーラーの使用を認める(接触等で破損しない素材の製品のみ使用可)

※具合が悪くなった選手、コーチ、大人が発生した場合は、速やかに涼しい場所または冷房の効いた事務所へ移動し、当番理事および審判責任者へ報告すること

※活動前において、疲労感や睡眠状況、風邪症状、下痢の有無、食事をとっているかなどの確認を行い、活動に参加が可能な状態かを各チームにおいて確認すること

また、活動中においても、体調等に十分注意しコンディションチェックを心掛ける。

\*心拍数、体温、体重、汗の出方等

以上